

Book 46 Dances 講習会



9月19日(日)の午前・午後、赤羽会館において95名の参加者を得てRSCDS Book 46ダンスの講習会が行なわれました。

講師：トム鳥山・寺久保ヒロ子・中田多鶴子・西森典子
ミュージシャン：村上美枝子・青山るり

当初の計画時はBook 46の細部不明で、従来のBookと同じように10ダンスを予想していましたが13ダンスもあり、1ダンスあたり約20分の講習となりました。ストラスペイ、クイックとも8回を踊る時間がなく、それぞれ dance once to the bottom となりました。幸いにして3 couples 同時スタートのダンスはなく、踊りの概要、ポイントをつかむには20分の講習でよかったのではないかと思います

ます。以前のNew Book 講習会は暑さにげんやりという場面が多かったのですが、エアコンの効く会場で、終わりまで元気に踊ることができました■

New Year Dance 2010

2011年1月10日(月・祝) 1 - 4.30
赤羽会館4F ¥1,000
演奏はボランティア・ミュージシャン

新しい年の始まりをダンシングで祝いましょう。プログラムなど詳しくはチラシをご覧ください■

Book 46 ダンスのカナ表記

Tom Toriyama

英語・スコットランド語国民でないわれわれは、ダンスのタイトルをどう発音すればいいのか悩むことが多い。日本における新ダンス講習会で講師によって述べられたカナ表記が時を経て別のものになり、英米における言い方と異なるタイトルもある。たとえば、Gilly Flower (Book 36) は松橋順子さんが「これはジリ・フラワーよ」と紹介したにもかかわらずいつの間にかギリ・フラワーとなり、S-Lo-motion (Book 41) はダンス創作者が「スローコモーション」と呼んでくれ、と言っているのに、日本ではエス・ロコモーションでとおっている、という具合である。

Book 46 ダンスを習うにあたって、タイトルをどのように言うのか、ティーチャーおよびクラスメートに確認するのもサマースクール参加の一つの目的であった。13 ダンス中、日本では間違いやすいタイトル、あるいは英米における言い方と異なるおそれがあるものは、

The Gardeners' Fantasia

ガードナーズ・ファンテイジア

Scott Meikle

スコット・ミーケル

Links with St Petersburg

の St Petersburg はセント・ピーターズバーグ

(現地では NY ヤンキーズ、セントルイス・ブルーズ、ロウルズ・ロイスと言うのと同じ。セント・ピーターズバーグはサンクトペテルブルク、ソ連時代のレニングラードのこと)

Peggy Spouse MBE

ペギー・スパウス MBE

(スパウスが正。よって Leaflet No. 22

の My Spouse Nancy もマイ・スパウス・ナンシーとなる。スポーズではない)

以上のほかに気付いた言い方は、Zoologist はゾアラジスト (zoo はズーにもかかわらず)、Quadrille はクオドリールと言っていた。

なお、Book 46 以前のダンス名の発音についてはマガジン 10 号のジミー・ヒルの文が面白く、参考になる (たとえば Balquidder の 'q' は発音しない) ■

東京ブランチクラス

会員はどのクラスにも参加することができます。アドバンスト・クラスはすべてのフォーメーションが出てくるため、ひととおりで動けることが必要ですが、それほどでもないダンサーも大勢いますので、気にすることはありません。アドバンスト・クラスでフレージング、ソシャル・スピリットを磨いてください。

ビギナーズ・クラスは当初松橋順子さん・福島チイ子さんの私的なクラスとして始まり、会場が大変狭かったためビギナーズ以外の参加を遠慮願っていました。ブランチ主催になっても「ビギナーズ以外は来てはいけない」の誤解がそのまま残ってしまいました。ダンシング習熟で最大の効果があるのは、「上手な人と踊ること」です。経験者も SCD を始めたころを思い出し、いまのビギナーズの人たちを援助してあげてください。

ビギナーズ・クラス

11月23日(月) 1.30 - 4.00

以降第2・第4月曜日

千代田区総合体育館5F

講師 篠塚昌子 (1月から堀澄子)

¥500/クラス

担当 井口弓子 048-924-9447

インターミディエイト・クラス

12月6日(月) 1.30-

講師 渋谷明美

千代田区総合体育館5F

2011年1月は休み

2月7日 講師 渡部多美子

3月7日 講師 大西弘美

¥500

担当 山田美代子 03-3696-9180

アドバンスト・クラス

12月4日(土) 6.20 - 8.40

講師 小山かおる

昌平童夢館4F

1月8日 講師 石田由美

2月5日 講師 長峯真弓

3月5日 講師 境 雅子

¥500

担当 篠塚昌子 029-485-8951 ■

運営委員会報告

8月7日

1. Book 46 講習会の指導担当と時間割を決める。ピアニストには Book 46 原本を送付済みで何を演奏するかはピアニスト間で決めてもらう。
2. 五十嵐成子さん祝賀会のミュージシャン候補および MC 候補から OK の承諾を得た。ダンスプログラムは9月に決定する。
3. 2010 年下期ランチクラスの講師選定を行なった。担当を再依頼する月もある。
4. New Year Dance 2011 の音楽まとめ役は9月に決定する。
5. トレジャラ交替にともなう預金通帳の名義変更は、郵便局係員の考え方に温度差があって難航している。ゆうちょ向けのみでのランチ規約をつくることになる見通し。
6. ハワイランチからワークショップ案内あり。ランチ主催でグループツアーを計画する。

9月4日

1. Book 46 講習会の最終確認を行なった。ダンサーの資質向上を願ってダイヤグラムは発行しない。
2. 五十嵐成子さん祝賀会、はあといん側との折衝結果を確認した。前回ビールが余った結果から、今回は少なめにする。ダンスプログラムを決めた。はあといんは今年末で閉鎖し、その後のリニューアル計画はないとのこと。
3. 2010 年下期ランチクラスの講師選定で一部未定のところは再依頼の結果、OK の回答を得た。
4. New Year Dance 2011 の音楽まとめ役は候補者から OK を得たが、一部のダンスは希望者にまとめをやってほしいとのこと。楽譜送付などの雑務はセクレタリが行なう。ボランティア・ミュージシャン募集はランチニュースで行なう。
5. 預金通帳の名義変更は東海ランチ小林一謙氏の助言を得てゆうちょ向けのみでの規約をつくり、終了した。この件については次期年次総会で説明し、会員了解を得る。
6. ハワイ・ワークショップ・ツアーの募集チラシを9月発行ランチニュースに同封する。
7. 本部 AGM 議案書送付あり。来年度の年

会費は今年度と同額の 15 ポンドで提案されている。五十嵐さんはパースの AGM で功労賞を受領する。

10月2日

1. Book 46 講習会は 95 名参加。収支は少額ながら黒字の見込み。モデルセットを使えばよいダンスもあった。
2. 五十嵐成子さん祝賀会の申込者数は9月末現在で 46 名。MC とミュージシャンの分担ダンスを確認した。計 10 卓ほどになるが、前回同様 A 卓だけ席順をきめ、のこりは自由着席とする。
3. New Year Dance 2011 のダンスプログラムを決めた。2 名の候補から MC 担当 OK の回答を得た。ボランティア・ミュージシャン募集を 10 月発行ランチニュースに載せる。
4. 25 周年ダンス CD の在庫は神奈川県 FD 連盟、TAC から追加注文受領などで減少する見込みである。
5. ランチクラスについて参加人員などを情報交換した。ランチ委員はアドバンスト・クラスにできるだけ顔を出すこと。
6. AGM の投票権 7 票についてはまずクレメント篤子さんに問合せ、その後に日本からの出席者名を記入して本部に提出する。
7. ハワイランチへのツアーは最小催行人数の 15 名に達せず、中止とするか参加費を上げて実施するかという状況。
8. ランチショップの販売価格が高いという声あり。リスク込み換算レート ¥150/£、国際ならびに国内郵送料、ランチ手数料 (1 点 ¥100) を加算するとあの価格になる ■

クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス 篠塚昌子

7月12日

Gramachie	MMM
The Wild Geese	Bk 24

7月26日

Balquidder Strathspey	Bk 24
Lady Dumfries	MMM
St Andrew's Fair	5 for 82

8月9日

Mrs MacLeod	Bk 6
Largo Law	MMM
Andrew and Gordon's Jig	Goldring

8月23日		
Maxwell's Rant	Bk 18	
Wisp of Thistle	Bk 37	
A Reel for Alice	Goldring	
9月13日		
Kendall's Hornpipe	Graded 1	
Balmoral Strathspey	Bk 22	
Catch the Wind	Bk 45	
9月27日		
The Birks of Invermay	Bk 16	
The Isle	Graded 1	
10月11日		
Sugar Candie	Bk 26	
Haste to the Wedding	Bk 25	
10月25日		
My Mother's Coming In	Bk 15	
Culla Bay	Bk 41	

インターメディアイト・クラス

8月2日 境 雅子		
Todlen Hame	Bk 16	
Miss Florence Adams	Bk 38	
The Cuckoo Clock	Barbour	
Today's Hot Fish	Obata	
9月6日 兼松千奈美		
The Rose Garden	Wendell	
The Hazel Tree	Drewry	
The Westminster Reel	Bk 45	
Two Up, Two Down	Haynes	
10月4日 佐藤仁美		
The Crossing	Bk 29	
Lady of the Lake	Bk 25	
Miss Hadden's Reel	Bk 23	
The Flower of Glasgow	Bk 46	

アドバンスト・クラス

8月7日 近藤幸子/小海弘子		
Milngave Circle	Keppie	
Bon Accord	Drewry	
Bearsden Jig	Glasgow85th	
Moorburn	Corners	
An Niseag	Attwood	
9月4日 寺久保ヒロ子/市川洋子		
Merry Lads of Ayr	Bk 1	
The Merry Oddfellows	MMM	
The Deacon of the Weavers	Bk 25	
The Earl of Errol's Reel	MacNab	
The Iona Cross	Mitchell	

10月2日 若松陽子		
The Reivers	Bk 23	
Bob Sanders	Bk 17	
The Hunter's Reel	Drewry	
Silver Bracelet	Skelton	
The Glenrothes	Graded 2 ■	

Caddam Wood

ダンスのエピソードあれこれ補足

Bill Clement

前号のブランチレターで *Caddam Wood* のエピソードを紹介しましたが、ビル・クレメントさんから以下の補足文をいただきました。

Caddam Wood についてのジョン・ミッチェルの記事は正しいとはいえない。

たしかにサマースクールでミス・ミリガンはバンドの演奏をやめさせたが、これは曲がパイプ・チューンだったからではなく、欧州大陸の民謡曲だったためである。オランダのフォークダンサーはこの曲を歌いながら踊っている。

1950年代においては法廷で争ったのである。有名なSCDミュージシャン2人がこの曲を作曲したのは自分であると主張した。判決は作曲家Aが第1セクション、もう一人が第2セクションを作曲したという結果であった。

ミス・ミリガンがこの曲を嫌ったわけはそのポルカのリズムにあり、スコットランド以外の音楽にがまんできず、しかもパデバスクを2ビートでやれというものだったからである。

結果的にミス・ミリガンはたくさんのパイプ・チューンをダンスにとり入れている。*Bonnie Anne* のオリジナルにはよく知られた *The Glendaruel Highlanders* を選んでいるし、*MacDonald of Sleat* には *Dovecot Park* を指定している。

ダンスにおけるすばらしいパイプ・チューンの使用はこのほかにも多い。たとえば *The Duke of Atholl's Reel*, *The Earl of Mansfield*, *The Reel of the 51st Division* である ■

リカップ MC のススメ

Tom Toriyama

東京ブランチ会員にはフォークダンスの一部としてスコティッシュ・カントリー・ダンシングを知り、SCD にのめりこんだという人が多い。なかにはいまもフォークダンスとSCD の両方を楽しんでいる人、さらには行事日程が重なった場合、フォークダンスへの参加をまず考えるという人もいる。

フォークダンスの場合、ダンス会でウォークスルーはやらない。隊形ができたならすぐ音楽である。短いダンスであれ、たとえば *Polyanka*、*El Jarabe Tapatio*、*The Skaters Waltz* といった長尺ものであれ、ウォークスルーはない。(ご承知と思うが、SCD においてはプログラム全ダンスがいわゆる“フリータイム”である)。フォークダンスのダンス会でなぜウォークスルーがないのか、「まえからそうやっている」ではなく、そのわけを考えたことがおありだろうか？

SCD における世界標準は、ダンス会にウォークスルーはなく、リカップ（北米ではブリーフィング）だけの MC である。諸外国のダンス・イベントを経験した東京ブランチ会員は増え続けており、外国では MC はリカップだけであることを今日ほとんどの会員が理解している。これは、ダンス会はクラス、練習会と違い、ダンシングを習う場ではなく、日ごろ練習した成果を発揮して自分も楽しみ、かつ他の人をも楽しませる機会である、という考えが欧米の SCD 界の根底に存在するからである。

ちなみに、米国大統領の就任式後のダンス会、ノーベル賞授賞式後のダンス会、あるいはウィーンのニューイヤードダンス会などのニュース、映像を見たり聞いたりすれば、この感を一層強くする。

SCD のダンス会にウォークスルーがなく、リカップだけの MC が世界標準となっているのは、ダンサーにダンシングを思い出させるためであるが、このほかにも大きな理由がある。

参加者をこども扱いしない。ダンス会にやってくる人たちはそれなりの経験を積んだ人

たちである。経験者に対してウォークスルーをやるというのは、そういう人たちをビギナーズ扱いすることになり、礼を失することになる。欧米のダンス会では「*The Deil Amang the Tailors* をなぜウォークスルーするのか！」とか「ウォークスルーはかえってわずらわしい」という人ばかりである。

盛りあがった雰囲気下げない。ウォークスルーがあるとどうしてもクラスの感じが漂い、せっかく盛りあがった会場の雰囲気が落ちてしまう。ダンス会が終わったとき、「なにか盛りあがりのない、平板なイベントだったね」という印象を与えることになる。

ミュージシャンはダンス会の雰囲気を盛りあげようとして一所懸命に演奏しているのであるが、ウォークスルーによって落ちた雰囲気を盛りあげるために、いっそうの努力を必要とする。さらに、MC がウォークスルーをただらとやった場合、ミュージシャン自身のやる気を低下させることにつながり、せっかくのライブ演奏が録音音楽使用と変わりがなくなってしまう。

ダンシングの楽しさが味わえる。前述のとおり、リカップ MC なら、フォークダンスの片手間に SCD をやっている人、おとといから SCD をはじめた人は参加を遠慮し、参加者はある程度のレベルの人になる。レベルの均質化した人たちのつどいとなり、ホール全体がソーシャルな雰囲気になる。未経験者に気をとられ、自分のダンシングまでおかしなことがない。

かつて、あるダンス会で素晴らしいダンシングのセットを見たことがある。ダンスは *The Braes of Breadalbane* であったが、ダンサーたちはアイコンタクトを超えてパートナーと通じ合い、つぎの動きがすべてわかり、フレーズは完璧、自分がこう動いたらパートナーもここまでやるだろうと感じ、そのとおりにぴったりおさまる、そのようなセットであった。このような感動を味わいながら踊っているのが、第三者にもよくわかる雰囲気を発していた。このような感動を味わえるのがリカップ MC のダンス会である。

リカップ MC の副産物というものがある。第 1 にあげられるのは、とっぴなダンスがプログラムに入らない、である。「ウォークスルー

するからどんなダンスでもプログラムに取り込み可能」という悪弊が日本のグループに存在する。グループ外のダンサーにとっては出典も不明なとっぴなダンスをプログラムに入れ、ソーシャルに楽しむどころか必死の形相で踊るダンサーばかり、というダンス会のなんと多いことか。あるグループのダンス会に *The Lanes of Au* があり、びっくりしたことがある。このダンスは1度や2度ウォークスルーしたからといって楽しめるようなダンスではない。

MC はリカップのみとすれば、プログラムはおのずと「ポピュラーなもの、出典があきらかなもの、リカップだけで踊れるもの」になってくる。「楽しくなければ SCD ではない」のミス・ミリガンの考えに沿うものとなる。

第 2 の副産物はダンサーの技量が向上する。「ウォークスルーがあるから勉強する必要がない」と、だれも前もってダイアグラムや Book で勉強して行かない。リカップだけなら、自身のないダンスは事前に資料をあたるか、リーダーに練習を頼む。各フォーメーションの名前と実際とを一致させておく必要があるから、日ごろのクラスでもその気になって練習する。技量は向上する。

日本でウォークスルーつき MC が主流となったのはなぜだろうか？

当時のリーダーたちが SCD を知らなかった。踊る機会が少ないから、どういう動きなのかリーダーもうろ覚えである。日ごろ「へタ！」とか「ダメ！」を連発しているリーダーが、ダンス会で踊りを間違えたら沽券にかかわる。というわけで、リーダー連中自身がウォークスルーを要求した。

MC が SCD を知らなかった。MC の経験がなく、リカップがどういうものかわからなかった。踊りに自信がなく、ウォークスルーをやって目の前のセットの動きを確認しながらダンスを説明していた。

ダンサーが SCD を知らなかった。ほとんどのダンスについて踊れる自信がなく、ハラハラ・ドキドキ・ヤレヤレでダンス会をすごしていた。

当時、サマースクール（セント・アンドルーズ）のヤンガーホールにおけるダンス会はリカップもなく、セットが出来たらいきなり音楽であった。リーダー連中はフォークダンスと同じこのやりかたは日本では時期尚早と考え、ウォークスルー MC になったのであるが、ダンサーは今ほど海外に行く経験がなく、ダンス会とはウォークスルーがあるもの思っていた。

ミスするのを極度に恐れる国民性もある。ミスなしで踊れる人は世界中どこにもいなし、ミスしたからといって命に別状はない。いまや外国に行き、リカップ MC で十分に楽しんでいるダンサーばかりなのに、日本に戻るとミスするのが恥ずかしい、他の人に悪いとウォークスルーを要求するのが日本人ダンサーである。もっと自信を持ってよいのである。

録音音楽を使っていた。ダンス会はミュージシャンと MC、ダンサーとの相乗作用で盛りあがる。往時 LP、テープ以外の音源はなかったため、ミュージシャンの気分がウォークスルーで低下することなど思いもよらなかった。

システムチックな踊りが SCD である。これが SCD が全世界で踊られている理由であり、たとえば 6 hands round and back なら世界のどこでも同じ動きで標準化されている。SCD は言葉でもって動くことができるが、フォークダンスではこれが困難である。SCD はシステムチックであるがゆえに、ウォークスルー可能という側面がある。

参加人数をもってダンス会が成功であるかどうかの目安にしている。参加人数が多ければ成功、少なければ不成功というわけで、上手だろうとへたであろうと枯れ木も山のにぎわい、とにかく人数を集めよう、それにはウォークスルーだ、となった。「人多きが故に尊からず」なのであるが、何が何でも人数を、という考えが蔓延している。

無感覚に前例を繰返してきた。ダンス会を企画するとき、ウォークスルーとするかリカップでやるか、議論するグループはまったくない。いままでウォークスルーでやってきたが、そろそろリカップ MC でやるべきである、という気運が皆無である。創立以来 40 年以上を

経過し、初心者参加お断りというグループでさえ、無感覚にウォークスルーMCを続けている。

ダンス会はそれなりに経験をつんだダンサーが対象であり、未経験ならば勉強してきてほしい、というのがSCD先進国の考え方である。そのもとはダンシングがレクリエーションよりも社交の必修マナーと考えている日常生活にある。欧米ではグループ設立のときからリカップMCである。いつまでもウォークスルーMCをつづけていると前述のように、こども扱いするなら参加しない、ということになりダンス会が立ち行かなくなる。ウォークスルーMCを求めるのは、おとなになっても補助輪付きの自転車に乗るようなもの、が欧米の考え方である。

「リカップMCでやりたいが、わがグループには初心者もいるし、その人たちのためにウォークスルーでMCをやる」という人は多い。この言葉は一面正しいように思われるが、要はリカップMCを決断するかどうかにかかっている。なぜなら、新しい人は常に入会してくるからである。未経験者を考慮すると百年たってもリカップMCはできない。フォークダンスのグループでは初心者に対し「こんどのダンス会、あなたにはムリだから1年待ちなさい」としよっちゅう言っているではないか。

わがブランチは今年26歳。補助輪付きの自転車に乗る年齢をとくに過ぎ、経験20年を超えるダンサーも数多い。ティーチャーも60人を超えている。ウォークスルーつきMCは日本で特化したガラパゴス現象である。わがブランチはそうではなく、欧米の慣習に合致したリカップによるMCをつづけるべきと思う■

5 カップルダンス小史

バンクーバー・ブランチ

5カップルのダンスが現れたのは1960年代の中頃である。最初の2ダンスはヒュー・フォスが作ったもので、*Earlstoun Loch (reel)*と

*Airie Bennan (jig)*がそれであり、それぞれグレンダロッホ・シート *Glendarroch Sheets* の1号と2号に載った。当時の雑誌 *The Thistle* の第18号(1964年4月)に、なぜ5カップルダンスを思いついたかという彼の記事が載っている。標準の8x32ダンスにおいて、4カップルで踊るとトップとボトムで1回休みのカップルが出てくるし、5カップルで踊らざるを得ないとき、1回しかダンシング・カップルをやれないカップルが出てくる、これは公平ではない、解決策をというわけであった。

『5カップルで踊ることが容易なダンスはいくつかある。*Lamb Skinnnet*はその1つである。あるボールで音楽がスタートしたあと、私はそのやり方を実践してみた。セットの全部がすぐに受け入れてくれた(たぶんみなそのやり方で踊ったことがあったのだ)。1stカップルは1回目、普通に踊るが、終わりは2ndプレースでなく3rdプレースに収まるやり方で、3rdカップルは2ndプレースにステップアップする。2回目以降は常にトップと3rdプレースの2つのカップルが踊り続ける。*Cauld Kail, Speed the Plough, The Reel of the 51st Division*もこのやり方で踊ることができる。*The Reel of the 51st Division*の終わりは10 hands roundとなる』

フォスがあげた3つのダンスでは、コーナー・フィギュアがあり、1stカップルは2ndプレースで終わる代わりに3rdプレースにクロスダウン、ないしダンスダウンする。この方法は、その後1ないし2年以内に作られた彼の5カップルダンスの常道となった。ステップアップした4thカップルはメリー・ブランドンの言うフローティング・コーナース、つまり上下両方のコーナーをつとめる。

ディレク・ヘインズはフォスのやりかたで1968年に *The Black Mountain Reel* を作り、グレンダロッホ・ダンスシート *Glendarroch Dance Sheet* で発表した。Turn corners and partner と diagonal reels of four がこの踊りに含まれている。

初期の5カップルダンスは他のフィギュアも取り入れ、半端な数のカップルであってもクラスができるので重宝された。*Earlstoun Loch*には double, double triangles がある。*The Black Mountain Reel*は9カップルで踊ることができ、ダンサーのスタミナが試されるが、4つの平行の diagonal reels of four は面白いのではないだろうか。人数が少なけ

れば3カップルセットで踊ることもできる。

フォスが1960年代後期に発表した輝くばかりのダンス、Polharrow Burnでは1stカップルと3rdカップルは上下の”box”に閉じ込められるが、最初彼はセット全体をチェイスするアイデアをもっていた。

フォスは最後に3つの5カップルダンス(ストラスペイ)を発表し、単純性のなかに隠された真の職人芸を完成させた。8小節のreel of five (Loch Doon Castle)と、8小節10人で踊るgrand chain (Lochskerrow)である。

1970年代後期にジョン・ドゥルーリが5カップルダンスの作成に戻った。例として彼のストラスペイ *Scotch Mist* で、彼自身が新たに考案したフォーメーション *corners pass and turn* を5カップルダンスに用いている。ドゥルーリのダンスには5カップルセットの対称性がしばしば現れる。*Ballynaree* (バンクヘッド・ブック Bankhead 1)はその例で、両エンドのカップルは *petronella in tandem* を踊り、同時に3rdカップルは両エンドのカップルを *dance round* する。

ヒュー・フォスが1964年に指摘したとおり、第1回目で1stカップルが3rdプレースにダウンすることで、数多くの3カップルダンスが5カップルでダンスできる。コーナー・フィギュアが5カップルセットに花を添えている。4人のダンサーがミドルで *reel, circle, hands across* が踊っているのなら、両エンドは *three hands round, three hands across, reels of three across* ができる。ドゥルーリの *Black black oil* がその好例である。

いまひとつ5カップルダンス創造のやり方がある。デモンストレーション目的で、トップの2カップルとボトムの2カップル(これは *opposite sides* にいる必要がある)が対称になって踊るやり方で、*Petronella, Deil Among the Tailors, Miss Ogilvie's Fancy* のようなシンプルでトラディショナル・ダンスを踊るといふものである。

そしていまや新しく、スクエア・セットの5カップルダンスの時代が到来している。(from 'The White Cockade' April 2007 by Vancouver Branch) ■

会報 No.27 の誤記訂正 日本のSCDグループ #35 竹本光雄さんの住所
誤：西新井 正：西新井本町

新 Book,CD 紹介

Tom Toriyama

- (1) The Ribble Valley Book of Scottish Country Dances – Book and CD
- (2) Index to Scottish Country Dances
- (3) The Kandahar Reel

(1) はイングランド北西部のリブルバリー・ブランチが出したブックとCDのセットである。ブックには20ダンス、CDには16ダンスが収められている。デビッド・クイーン、アンジェラ・バルティールほかブランチ会員が作ったダンスで、*poussette* と *allemande* をミックスした *allepousse* なる面白いと言おうか珍奇と言おうかのフォーメーションもある。CDはニコル・マクラレンのバンドで、このバンド特有の軽快でしっかりした音で、録音品質もよい。注文略号：リブルバリー・セット

(2) はRSCDSダンスの2010年版インデックスで、Book 46とGraded Book 2までのRSCDS全ダンスを記載している。Stで始まるタイトルはSaintとして'S'の前にある。注文略号：インデックス

(3) はマガジン10号で紹介されたアフガニスタン駐留英陸軍ブラックウォッチ連隊の士官が作ったリールの説明書である。価格4ポンドの半額がアフガン駐留兵士基金に寄付される。ユーチューブで見た限りではややこしそうな踊りである。注文略号：カンダハル・リール

以上と、前号で買い洩らしたBook46ほかの品物のご注文は郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチでお申し込みください(送料込み)。

リブルバリー・セット	¥2,800
インデックス	¥1,000
カンダハル・リール	¥1,000
Book 46	¥1,400
Graded Book 2	¥2,300
Book 13-18 合本	¥2,300
CD Book 7, 17, 46	
それぞれ	¥2,400
CD Graded Book 2	¥3,100

ショップ担当 金田治子 043-485-8951
締切り 11月25日(木)
お渡し予定 12月末 ■